

現代版「のろし」

IoTシステム

逃げ遅れさせない！IoT による津波・洪水襲来 検知システム

自治体・官公庁・防災関連企業に向けた、革新的なIoTシステムです。信頼感を感じさせるアプローチで、防災の課題を根本から解決します。

以下の構成で、現代の防災課題に対する具体的かつ実効性の高いソリューションをご紹介します。



ターゲット課題：なぜ逃げ遅れが発生するのか？

防災無線の限界

既存の防災無線（「津波が来ています！」）だけではリアリティがなく、人々の心は動かない。

正常性バイアス

「自分は大丈夫」という根拠のない正常性バイアスが避難を遅らせる。

状況把握の困難

建物があれば津波自体も見えず、状況を把握した時にはすでに手遅れになる。

❌ 逃げ遅れの根本原因は「情報のリアリティ不足」と「人間の心理的バイアス」にあります。

解決策 2

解決策：現代版「のろし」によるリアルな危機通知

「のろし」の仕組みを現代に

特定の意味を持つ信号で迅速な判断を促す「のろし」の仕組みを現代のIoTで再現。

具体的なランドマーク名で通知

「〇〇公民館まで津波が来ています！」と、町内の誰もが知る具体的なランドマーク名で通知することで、正常性バイアスを打破し現実を認識させる。



既存システムの限界（河川監視カメラ等の課題）

全国に約**1万台**ある河川監視カメラは問題が山積しています。

● 夜間・新月の問題

夜間や新月前後では状況確認ができない。

💰 高コスト

機器本体価格が高く（簡易型でも**1台30万円**）、ランニングコストも膨大。

⚠️ 老朽化・故障

老朽化や故障で**半数近くが稼働していない**という実態がある。

🔒 プライバシー問題

カメラ設置による住民のプライバシー侵害の懸念。

コアテクノロジー：究極のIoTシステム

✔ 弊社の特許事項である「センサーレス、バッテリーレス、ワイヤレス」のIoTシステム



電源不要・停電時も稼働

既存のIoTのように電源（バッテリーやコンセント）を必要としないため、停電時でも確実に作動し、バッテリー交換の手間もない。



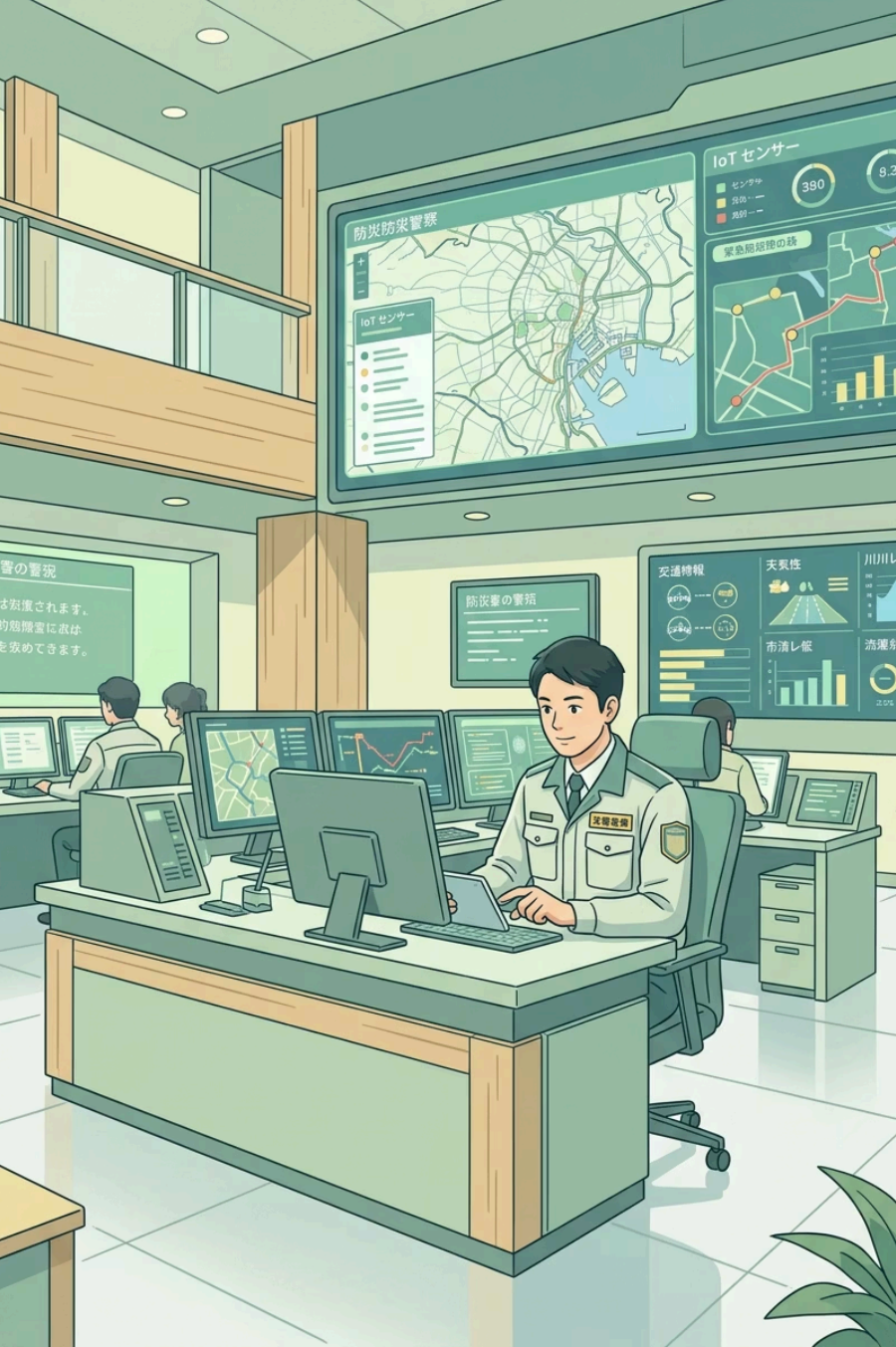
LoRa / LoRaWAN 長距離通信

通信はLoRa / LoRaWANの長距離通信と、StarLink（衛星通信）を組み合わせた完全独立ネットワーク。



地上網寸断でも稼働

StarLink（衛星通信）との組み合わせにより、地上網が寸断されても稼働する完全独立ネットワークを実現。



今後の展望 6

2026年防災庁設置を見据えた今後の展望

1

防災DXへの完全合致

2026年度新設予定の「防災庁」が推進する「AI・IoTを活用した防災DX」に完全合致。

2

API連携・情報共有

防災庁のSOBO-WEB等とのAPI連携を前提とし、自治体・消防等とリアルタイムな情報共有を実現。

3

官民連携リーダーシップ

官民連携の成功事例として、防災市場でのリーダーシップを確立する。